

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

出願人代理人

羽鳥 修

様

あて名

〒 107-0052

東京都港区赤坂一丁目8番6号
赤坂HKNビル6階

REC'D 11 NOV 2004

WIPO

PCT

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

09.11.2004

出願人又は代理人
の書類記号

P2004-0072WO

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2004/010800

国際出願日

(日.月.年)

29.07.2004

優先日

(日.月.年)

31.07.2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl. 7 A61F7/08

出願人 (氏名又は名称)

花王株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

☒ 第I欄 見解の基礎

☐ 第II欄 優先権

☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

☒ 第IV欄 発明の単一性の欠如

☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

☐ 第VI欄 ある種の引用文献

☐ 第VII欄 国際出願の不備

☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

26.10.2004

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

安井 寿儀

3 E 9 5 3 0

電話番号 03-3581-1101 内線 3344

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第IV欄 発明の単一性の欠如

1. 追加手数料納付の求め（様式PCT/ISA/206）に対して、出願人は、

- ☒ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 追加手数料の納付はなかった。

2. ☐ 国際調査機関は、発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際調査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

請求の範囲1-11に係る発明（主発明、第2発明、第3発明）の特別な技術的特徴は「被酸化性金属（物質）、保水剤及び繊維状物を含む発熱性の抄造シートと、該抄造シートを収容する通気性の収容体とを備えたシート状加温具」に関し、請求の範囲12-16に係る発明（第4発明）の特別な技術的特徴は「被酸化性金属、保水剤及び繊維状物を含み、裂断長が100～4000mである発熱シートの片面又は両面に、通気性シート又は非通気性シートが積層されているとともに、表面にエンボス加工によって多数の凹凸部が形成されているシート状発熱成形体」に関し、請求の範囲17-19（第5発明）に係る発明の特別な技術的特徴は「被酸化性金属、保水剤及び繊維状物を含み、裂断長が100～4000mであるシート状成形体の表面にエンボス加工によって凹凸部が形成された発熱シート」に関し、そして、請求の範囲20-23に係る発明（第6発明）の特別な技術的特徴は「被酸化性金属、保水剤及び繊維状物を含み、多数の孔又は切り込みを有する一のシート状成形体を備えた発熱シート」に関するものである。

これらの発明は、一又は二以上の同一又は対応する特別な技術的特徴を含む技術的關係にないから、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められない。

また、請求の範囲1-6に係る発明（主発明）、請求の範囲7-9に係る発明（第2発明）及び請求の範囲10-11に係る発明（第3発明）の共通の事項は、「被酸化性金属（物質）、保水剤及び繊維状物を含む発熱性の抄造シートと、該抄造シートを収容する通気性の収容体とを備えたシート状加温具」である。

しかしながら、調査の結果、この共通の事項は、文献：JP 2572621 B2（日本パイオニクス株式会社）1997.01.16、全文、第1-2図に開示されているから、新規でないことが明らかとなった。

結果として、上記共通の事項は先行技術の域を出ないから、PCT規則13.2の第2文の意味において、「特別な技術的特徴」とは認められない。

よって、主発明、第2発明、第3発明に共通の事項はなく、これらの発明相互間に、一又は二以上の同一又は対応する特別な技術的特徴を含む技術的な関係が存在するとは認められない。

4. したがって、国際出願の次の部分について、この見解書を作成した。

- ☒ すべての部分
- ☐ 請求の範囲 _____ に関する部分

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲 1-19, 21-23

請求の範囲 20

有
無

進歩性 (IS)

請求の範囲 1-6, 8, 10-19, 21

請求の範囲 7, 9, 20, 22-23

有
無

産業上の利用可能性 (IA)

請求の範囲 1-23

請求の範囲

有
無

2. 文献及び説明

文献1:JP 10-263002 A(株式会社元知研究所)1998.10.06
全文, 全図

文献2:JP 2572621 A(日本パイオニクス株式会社)1997.01.16
全文, 第1-2図

文献3:JP 5-46702 Y2(日本パイオニクス株式会社)1993.12.07
第1欄第2-7行, 第1-3図

文献4:JP 2001-149401 A(株式会社白元)2001.06.05
全文, 全図

請求の範囲20

国際調査報告で引用された文献1には、被酸化性金属、保水剤及び繊維状物を含み、多数の孔を有する一のシート状成形体を備えた発熱シートが記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲7, 9

国際調査報告で引用された文献2には、被酸化性物質、保水剤及び繊維状物を含む発熱性の抄造シートと、該抄造シートを収容する通気性の収容体とを備えたシート状加温具が記載されている。また、国際調査報告で引用された文献3には、シート状加温具において、発熱体を収容する収容体中に断熱シートが配された技術が記載されている。そして、文献2のシート状加温具に、文献3の技術を適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲22

国際調査報告で引用された文献4には、発熱シート表面に凹凸部が形成された技術が記載されている。そして、文献1の発熱シートに、文献4の技術を適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲23

文献1に記載された発熱シートにおいて、坪量100g/m²あたりの透気度を0.1~8秒/(6.4cm²・300ml)と限定することは、当業者による設計的事項であり、進歩性を有しない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2 欄の続き

請求の範囲1-6, 8, 10-11

シート状加温具の曲げ強度を $0.01 \sim 0.3 \text{ N/cm}$ 、あるいは $0.01 \sim 1.0 \text{ N/cm}$ とすることは、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、また、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲12-19

発熱シートあるいはシート状成形体の裂断長を $100 \sim 4000 \text{ m}$ とすることは、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、また、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲21

発熱シートにおいて、被酸化性金属、保水剤及び繊維状物を含み、孔又は切り込みを有するシート状成形体の表面に、孔又は切り込みを有しない他のシート状成形体を積層することは、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、また、当業者にとって自明なものでもない。